



枕崎市が取り組む 子育て支援

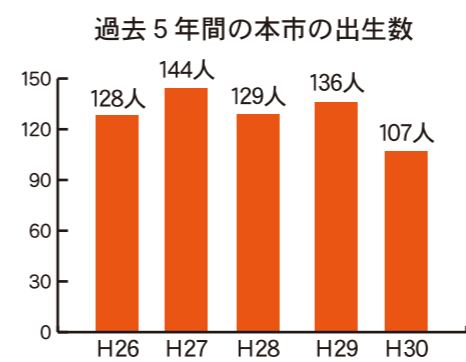
～子どもを安心して産み育てられるまち～

子どもを安心して産み育てられるまちを目指して、本市ではさまざまな子育て支援を実施しています。今回は、数ある子育て支援の中でも未就学児の子育て支援に関する特集です。

新しい命の誕生

本市では、昨年1年間で107人の新しい命が誕生しました。「子宝」という言葉があるように、子どもはかけがえのない宝です。全国的に少子高齢化が進む昨今、本市においても生まれてくる子どもの数は減少していますが、毎年100人以上の新しい命が誕生しています。

新しい命の誕生は、同時にお父さん、お母さん、そして周りの家族の子育てのスタートでもあります。それまでの自分中心の生活から子ども中心の生活へ変わり、初めて子育てをする方はもちろん、今まで子育ての経験がある方にとっても、さまざまな不安やストレスを抱える方



増え続ける児童虐待

厚生労働省が公表した「平成29年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数(速報値)」によると、全国210カ所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は13万3778件で、前年度に比べて1万1203件増加し、過去最多の件数となりました。この調査の過去10年の件数を見てみると、毎年右肩上がりで増えてきており、10年前(平成19年)と比べると3倍以上の児童虐待に関する相談が寄せられています。

この背景には、全国的に児童虐待への意識の高まりにより、児童相談所への相談・通報の件数が増えたことも要因の一つと考えられますが、核家族が増加したことにより、周囲に相談できる人がいないために「孤育て」に苦しみ、産後うつや育児ノイローゼなどの心の病を引き起こし、児童虐待につながるといことも要因となっています。

国の政策

近年の核家族化や児童虐待の増加などを背景に、国は妊娠・

出産・子育てを家庭のみに任せるとはならず、生活している地域で各関係機関や地域の人が支援し、孤立を防ぐことが重要なことであるとして、さまざまな施策を実施しています。

日本では、出産するお母さんに母子健康手帳の交付を行い、妊娠中の母親学級、妊婦健康診査、産婦訪問、新生児訪問、乳幼児健康診査など多様な母子保健事業が行われてきました。平成21年度からは乳児家庭全戸訪問が開始され、さらに、妊産婦等の不安や負担を軽減し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うため、平成27年度から妊娠・出産包括支援事業が本格的に実施されました。

また、関係機関の間でより切れ目のない連携が必要であるとして、平成29年4月に「子育て世代包括支援センター」の設置が市区町村の努力義務として法定化されました。

本市では、国の政策に基づいてさまざまな事業を実施しています。平成27年には国に先駆けて子育て世代包括支援センター(枕崎市健康センター内)を設立し、保健師、助産師、看護師な

枕崎市の子育て支援

どの専門職を配置しました。ワンストップ拠点として医療機関や保健所、子育て支援センター、保育園、幼稚園、児童発達支援施設と連携し、妊娠前から妊娠期、出産、産後、育児と切れ目のない支援を実施しています。

その一つが市内にある産産婦人科と連携して行う乳児家庭全戸訪問事業です。生後4カ月までの赤ちゃんとお母さんを支援するこの事業は、産産婦人科の助産師が保健師や保育士とお宅を訪問します。医療機関に勤務している助産師と一緒に訪問をするのは県内でも珍しく、地域に入って専門的な支援を行っています。

また、地域では先輩のママさんたちが「母子保健推進員」として活動しています。健診等の通知配布や育児についての相談・連絡を行い、お母さんたちが地域でのびのび子育てができるよう支援しています。

一人で悩まずに

7月18日、健康センターで子

育て支援事業の一つであるふれあい・子育てサロンにここにクラブが開催されました。参加したのは、1歳からの未就学児とそのお母さん。この日は立神海の風こども園の保育士の先生による劇や簡単なおもちゃ作りが行われました。

この子育てサロンは同年代の子どもを育てるお母さんたちにとっては交流の場でもあります。同じような悩みを抱えるお母さん同士がお互いに相談し、話を聞くことで不安や悩みの解消が図られています。もし、子育てで悩んでいる方がいたら、一人で悩まずに市が実施している子育て支援事業をご利用ください。悩みを解決する良いヒントが見つかるはずです。



子育てサロンのようす

森産婦人科の紹介

地域の妊産婦と子どもの誕生を支える産婦人科

南薩地域には産婦人科が2カ所あります。そのうちの1つが本市唯一の産婦人科である「医療法人ラフォーレ森産婦人科」です。森産婦人科は、1915年(大正4年)に本市で開業し、1世紀以上にわたり地域の子ども誕生を支えてきました。県内でも早い時期に「産後ケア事業」に取り組むなど、市と連携しながら産後のお母さんや家族が安心して育児をスタートできるように、育児指導やさまざまな支援を実施しています。

森明人院長は、「最近では生まれる赤ちゃんの数が減って、地方ではお産ができる施設が激減しています。南薩だけが周産期医療の拠点病院が無いので、早期の設立が望まれます。当院で



森明人院長

は、平成29年から深町信之副院長が就任し、医療体制もさらに充実しています。これからも地域のために頑張っていきたいと思っています」と話します。

女性が受診しやすい環境

森産婦人科では、月に1回、女性の先生が診察を行っています。診察を行うのは森院長の娘の森まり絵先生。現在、鹿児島大学病院に在籍し、月に1回の土曜日に森産婦人科で外来診察を行い、女性の方が受診しやすい環境となっています。

まり絵先生は、「今、子宮頸がんが若年化の傾向にあり、20代でも発症する方がいます。20歳からがん検診を受けることお勧めしますが、なかなか受診しづらいのが現状です。私の診察日は森産婦人科のホームページに掲載してありますので、ぜひ、がん検診に限らず気兼ねなく受診してください」と話していました。



森まり絵先生